

北海道自然体験活動推進協議会 & 日本環境教育学会北海道支部 2022年度 合同フォーラム

2023年3月4日（土）～5日（日）
全編遠隔（オンライン）開催

シンポジウム（3月4日9:00～17:00）

『私たちは動物にどう向き合っていくのか』

～多様性と包括性（包摂性）、持続性を内包した教育の展開可能性～

- I 解題** 野村卓（北海道教育大学釧路校、支部運営委員）
北海道の動物園・水族館の実践の動向
朝倉卓也（札幌市円山動物園、支部運営委員）
国際的な動向：IZAが目指しているところ
高橋宏之氏（千葉市動物公園）

北海道ではヒグマやエゾシカとの遭遇事故が多発するようになりました。野生生物との共生が必要なことは誰もが思うことですが、実際、ヒグマのように身近にいる野生生物であっても共生はなかなか難しい状態です。そうした中、動物園や水族館は、多様な野生生物の世界への窓口として、私たちに多くの学びを提供してくれており、近年その価値が高まっています。

今回のシンポジウムは、動物園・水族館関係の皆さんと、愛護動物保護や野生生物保護活動を行っている皆さんや人と動物のインクルーシブな活動を行っている方に参集頂き、動物たちとの向き合い方を改めて見つめ直します。

II 北海道の動物園・水族館の多様性保全の実践から

(1) 生物多様性保全と学校教育などとの連携教育の取り組み

鳥居佳子氏（札幌市円山動物園）、佐賀真一氏（旭川市旭山動物園）
伊藤亜美氏（帯広市おびひろ動物園）、菊池基弘氏（サケのふるさと千歳水族館）
木村久美子氏（釧路市動物園）（報告順）

(2) 生物多様性保全における共生のための教育の取り組み

飯間裕子氏（釧路市動物園）、山内創氏（北の大地の水族館）（報告順）

研究・実践成果報告会（3月5日9:00～17:00）

*ただし報告数により終了時間は変更されます。
環境教育やESD,SDGs、自然体験などで、北海道に関わりのある研究成果、実践成果を広く募集します。



上記のQRコードからお申込みください。

発表方式：1発表15分（発表12分、質疑3分）
3～4報告後、総合討議15分

発表申込期間は2023年1月10日（火）
～2月21日（火）

申込受理後、報告要旨フォーマットを送付します。要旨提出期限は、2月28日（火）です

この成果報告では、全国から発表申込を受け付けます。また、日本環境教育学会員でなくても報告できます。

III 人と動物が包摂される環境とは一絆・繋ぎの実践から

相馬司氏（札幌市保健福祉局保健所動物管理センター）
滝澤礼奈氏（NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道）
加藤康大氏（NPO法人いきものいんく）
南保泰雄氏（帯広畜産大学）（報告順）

対象者：動物園、水族館、愛玩動物保護、生物多様性保全、
インクルーシブ、サステイナブルなどに興味のある方

参加費：無料

問い合わせ先：えぞCONE-EE北海道支部2022年度研究大会担当：野村・松田

ee2022research.conferences@gmail.com

共催：北海道自然体験活動推進協議会（えぞCONE）

日本環境教育学会北海道支部

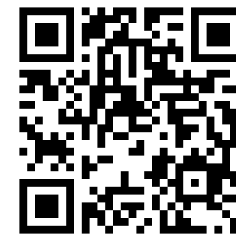
北海道環境教育研究会

北海道教育大学釧路校ESD推進センター

遠隔懇親会（3月4日18:00～20:00）

各自、飲料やおつまみをご用意頂き、参加ください
自己紹介や意見交換などを行います。気軽に参加ください。

QRコードから参加・発表申込ができない方は、
下記のPeatixのURLから申し込みができます。
<https://2022ezocone-eehokkaido.peatix.com/>



Peatixにおいてもフォーラム情報を更新しています。左記QRから入ることができます。

